



### 一年間を振り返って

校長 敦澤 雅規

コロナ禍での生活も終わり、依然マスクを着用する生徒もいる中ではありますが、通常の日常が当たり前の学校生活をスタートさせることができました。

最初に全校で取り組んだ体育大会では、100m走のゴールを保護者席の近くにしたり、前年度にできなかった学年種目（ムカデ競技等）を復活させたりしました。九中生らしく、勝敗を超えて「先輩が後輩を、後輩が先輩を応援し合う」姿、差がついても決して手を抜かずにゴールまで全力で走りきる姿が随所に見られ、一体感のある感動的な体育大会とすることができました。体育大会を通して、生徒たちは勝ち負け以上に大切なものを、身に付けることができたと感じています。また、ここ数年で課題となっていた熱中症の対応では、生徒席のテントの設置やマスクを外して競技を行うことの徹底など、最大限の配慮をしました。今後も続けていきたいと思います。保護者の方々のお手伝いにも助けられました。今年度もみんなで創り上げた体育大会でした。



また、RISURUホールで行われた10月の音楽学習発表会も、無事に実施することができました。特に3年生のホール中に響きわたる大地讃頌には、鳥肌が立ちました。どのクラスも音量があって迫力満点で、順位をつけることが難しい演奏でした。短い練習期間の中でよくぞあそこまで歌い切ったと思います。「どうだ後輩たち。これが九中の3年生だ!」というPRIDE、3年生の「底力」を感じました。精一杯歌うことはもちろん、仲間の合唱を真剣に聞

き、大きな拍手でたたえることができる九中生を、私は誇りに思います。ここでも生徒同士のコミュニケーション力や団結力等を育成することができたと感じています。

そして今年度一番のチャレンジは、収穫祭での豚汁喫食の復活でした。PTAの役員さんやボランティアの保護者の方々がいなければ、成立しない催しです。お手伝い、本当にありがとうございました。仲間やボランティアの方々に感謝の想いを伝え、太鼓と伝統の九中音頭に乘せて踊り、収穫した「命」を豚汁にさせていただいたのは、感無量でした。これまでずっと農園活動に汗を流してきた1年生はもちろん、2、3年生も昨年・一昨年を思い出して美味しくいただいたことと思います。保護者や地域の方々、農園ボランティアの方々などの支えがあって九中が成り立っているのだと改めて感じ、感謝の想いでいっぱいです。



他にも職場体験学習や修学旅行、校外学習、スキー移動教室など、数々の授業や行事などがありました。そのたびに成長が見られ、日頃の授業の中でも、積極的に班活動や話し合い活動が行われるようになり、授業の質も向上していきまし、生徒同士の距離が近くなったように感じます。



このように、九中生は確実に成長することができました。振り返ってみると、そこに共通しているのは「主体性」です。行事や学習活動に前向きに挑戦し、仲間とコミュニケーションをとりながら、笑顔で活動をしてきました。来年度も互いが信頼関係を構築し、自ら学び考え、主体的に物事に取り組み行動できる生徒を育てていきたいと思っています。そして、生徒一人ひとりが目を輝かせ、ワクワクしながら前向きに活動できる学校を目指してまいります。これからも保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。一年間、九中を支えていただき、ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。